

令和元年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課

令和元年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後の県立高校改革の動向を踏まえ、分析結果を活用しながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

I 実施対象

生徒	全県立高校（全課程）の卒業学年・年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
学校運営協議会委員	全県立高校の学校運営協議会委員

II 実施時期 令和2年1月～令和2年3月

III 集計区分

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	97	鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、瀬谷、瀬谷西、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、磯子、氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、大楠、逗子、逗葉、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、寒川、平塚江南、高浜、大磯、二宮、秦野、秦野曾屋、伊勢原、伊志田、小田原東、西湘、足柄、大井、山北、厚木、厚木東、厚木北、厚木西、海老名、有馬、愛川、大和、大和南、大和東、大和西、座間、綾瀬、綾瀬西、麻溝台、上鶴間、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、城山、津久井
		単位制	15	神奈川総合、横浜清陵、横浜旭陵、横浜緑園、横浜桜陽、横浜栄、川崎、大師、三浦初声、平塚湘風、小田原、厚木清南、藤沢清流、相模原青陵、弥栄
	総合学科	単位制	7	鶴見総合、金沢総合、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合、相模原総合
	専門学科	学年制	20	神奈川工業、白山、二俣川看護福祉、商工、上矢部、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、横須賀工業、藤沢工科、平塚農業、平塚工科、平塚商業、小田原東、小田原城北工業、厚木商業、厚木北、中央農業、相原、津久井
単位制		6	横浜国際、横須賀明光、海洋科学、吉田島、神奈川総合産業、弥栄	
定時制	普通科	学年制	7	横浜翠嵐、希望ヶ丘、横須賀、追浜、茅ヶ崎、伊勢原、津久井
		単位制	6	横浜明朋、川崎、小田原、厚木清南、湘南、相模向陽館
	総合学科	単位制	5	磯子工業、向の岡工業、平塚商業、秦野総合、神奈川総合産業
	専門学科	学年制	3	神奈川工業、小田原城北工業、三浦初声
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

IV 実施内容

1 生徒向けアンケートの回答者数及び回答率

区分		対象者数	回答者数	回答率	
全日制	普通科	学年制	28,307 名	21,752 名	76.8 %
		単位制	3,536 名	2,776 名	78.5 %
	総合学科		1,647 名	1,431 名	86.9 %
	専門学科		4,305 名	3,547 名	82.4 %
定時制		915 名	705 名	77.0 %	
通信制		325 名	275 名	84.6 %	
全体		39,035 名	30,486 名	78.1 %	

2 アンケートの質問項目

1 生徒向けアンケート

- (1) 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。
- (3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。
- (4) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。
- (5) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (6) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (7) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

2 保護者向けアンケート

- (1) 生徒本人の高校生活を振り返って、本人が通っている高校に満足していますか。
- (2) 高校生活を通して、中学生の時よりも生徒本人の思考力・判断力・表現力が高まったと思いますか。
- (3) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。
- (4) 生徒本人の高校生活を振り返ってみて、生徒本人が中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (5) 生徒本人が高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

V 結果の概要（次項以降）

- 1 生徒向けアンケート結果
- 2 保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較
- 3 学校運営協議会委員の意見

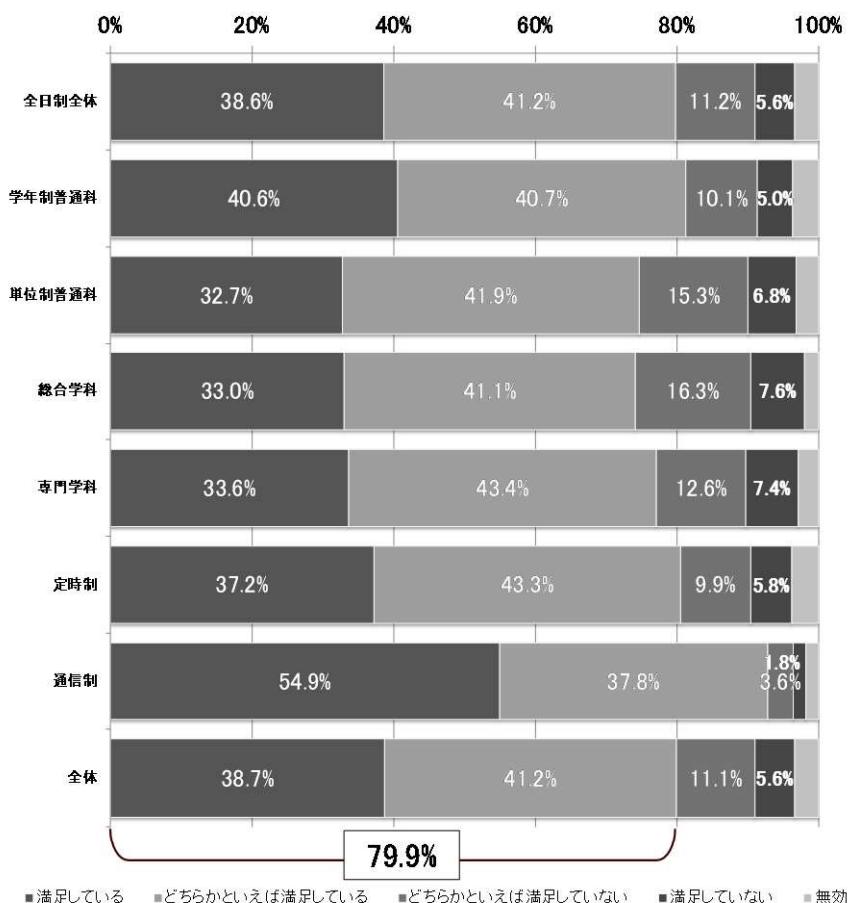
1 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

なお、令和元年度のアンケートは、従前のアンケートから設問内容や選択肢を見直して実施した。設問については表現をよりわかりやすいものとし、選択肢については、5択（とても満足している・満足している・おおむね満足している・あまり満足していない・満足していない）から4択（満足している・どちらかといえば満足している・どちらかといえば満足していない・満足していない）、又は、（そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない）に変更した。このため、昨年度の結果は参考値として分析を行った。

（1） 高校生活を振り返ってみて、あなたが通っている高校に満足していますか。

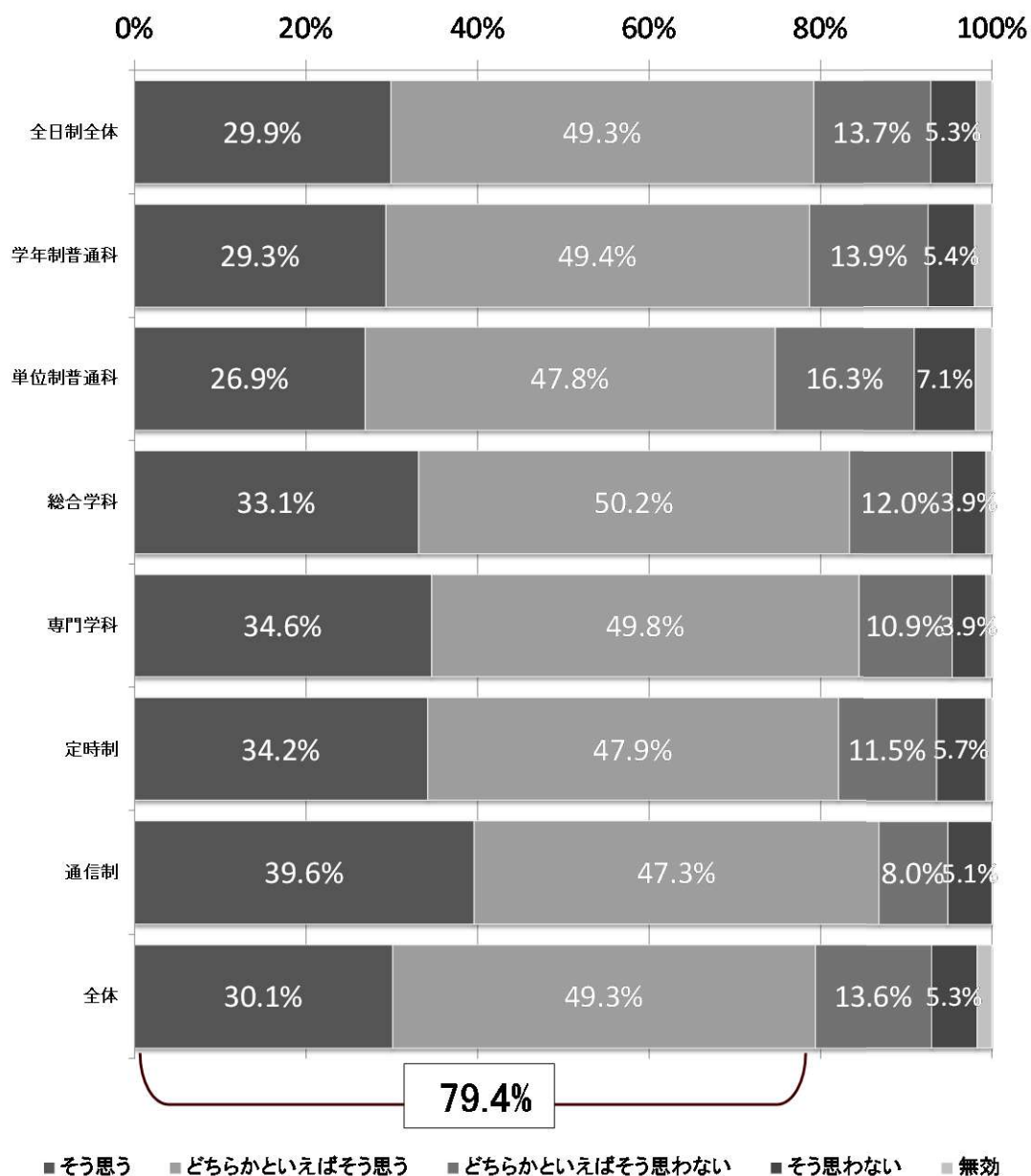
この質問項目に対して、「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の79.9%となった。平成30年度の満足群（83.9%）と比較すると、どちらも満足群は約8割であり、ほぼ横ばいで推移している。また、通信制の生徒の半数以上が「満足している」と回答しており、高校生活に対する満足度が高いことが伺えた。今後も引き続き多様化する生徒・保護者のニーズに応えた教育活動による魅力ある県立高校づくりのさらなる推進が必要である。



(2) 高校生活での「キャリア教育（社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てる教育）」

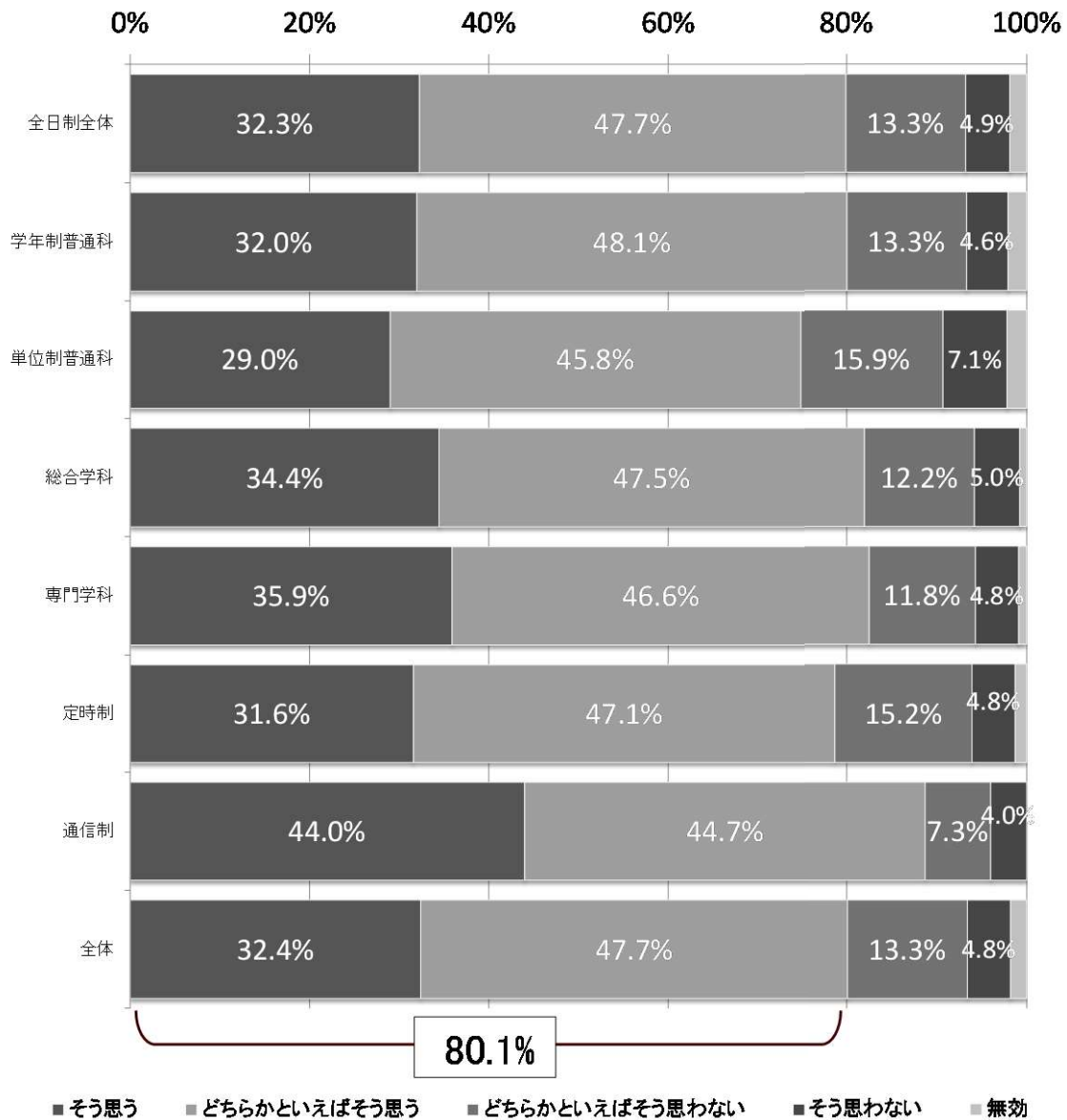
により、中学生のときよりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかに回答している生徒（以下「肯定群」という。）は、回答者全体の79.4%となった。平成30年度の肯定群（76.4%）と比較すると、ほぼ横ばいで推移していることから、引き続き生涯を通じた自分の生き方・あり方について考える取組を充実させることが必要である。



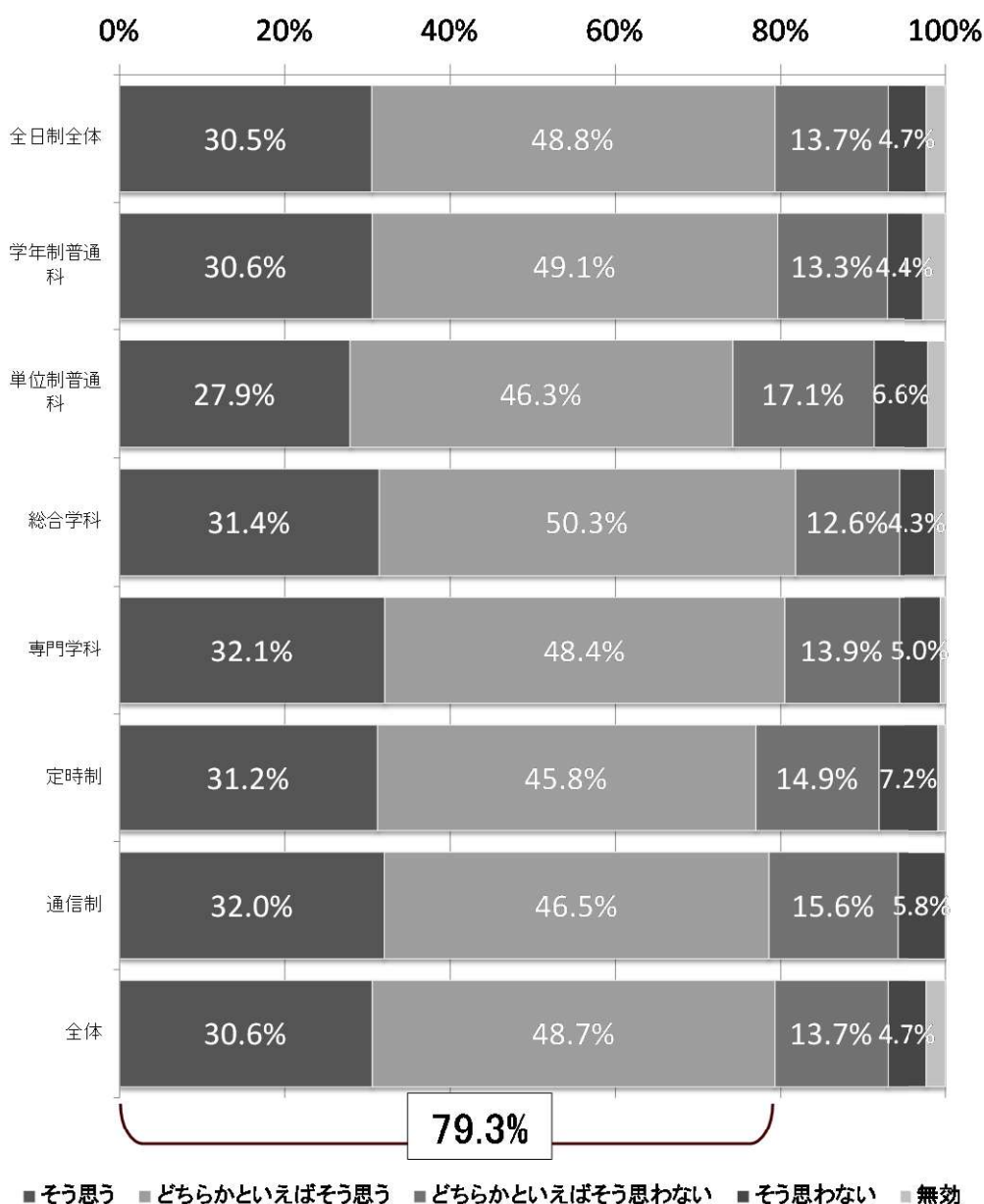
(3) 「学校での授業や活動が今後の自分のために役に立つ」と思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の80.1%となった。平成30年度の肯定群（85.4%）と比較すると、どちらも肯定群は8割を超えており、ほぼ横ばいで推移していることから、引き続き自己の進路への自覚を深める取組を充実させたり、教育の質の保障に取り組んだりする必要がある。



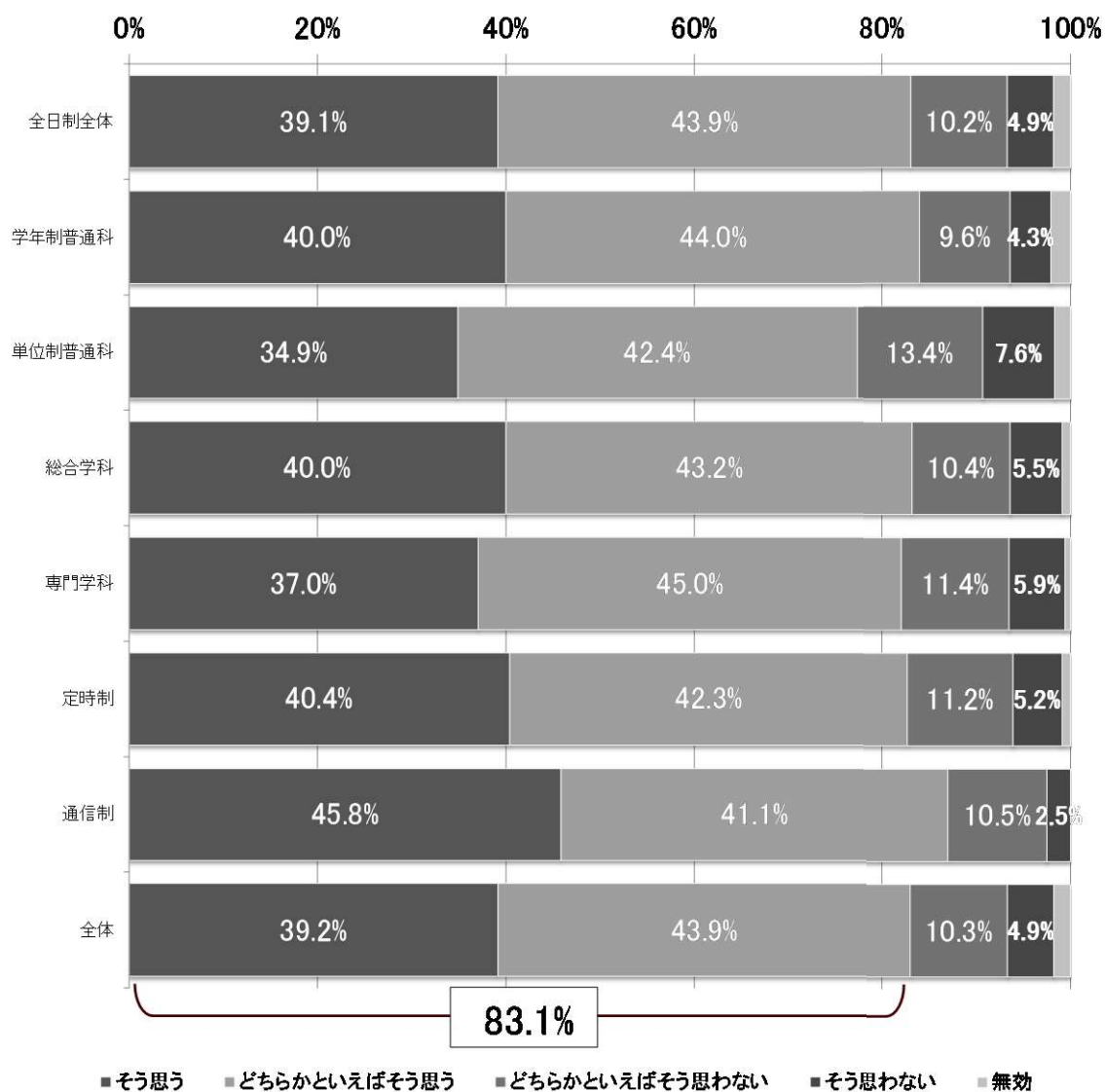
(4) 高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生のときよりも思考力・判断力・表現力を高めることができましたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の79.3%となった。平成30年度の肯定群（84.1%）と比較すると、どちらも肯定群は約8割であり、ほぼ横ばいで推移していることから、引き続き主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を高める取組を推進する必要がある。



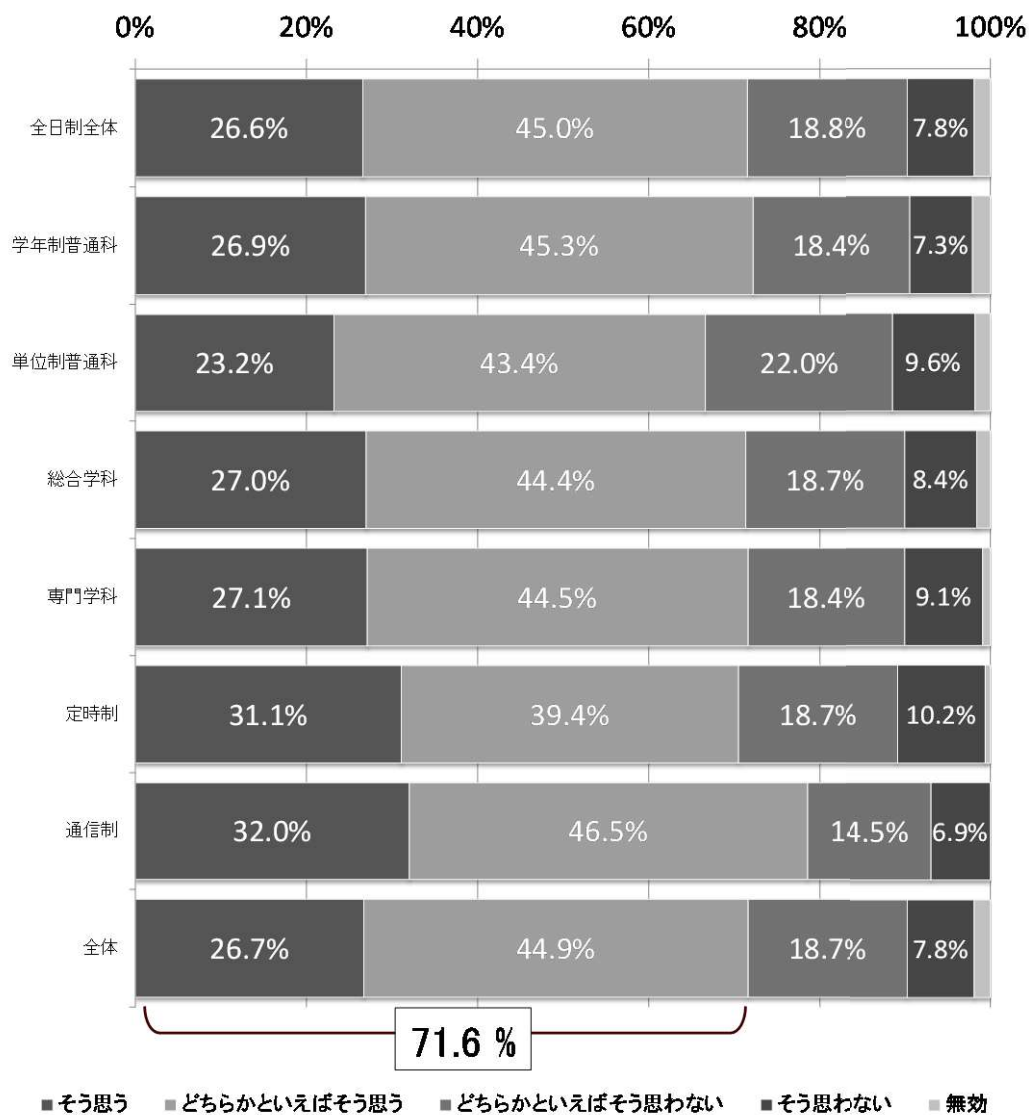
(5) 中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身に付いたと思いますか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の83.1%となった。平成30年度の肯定群（85.8%）と比較すると、どちらも肯定群は8割を超えており、ほぼ横ばいで推移していることから、引き続きいのちの大切さや他人への思いやりを学ぶ「いのちの授業」等の取組により、高校生活を通じて、他者への理解を深めさせることが必要である。



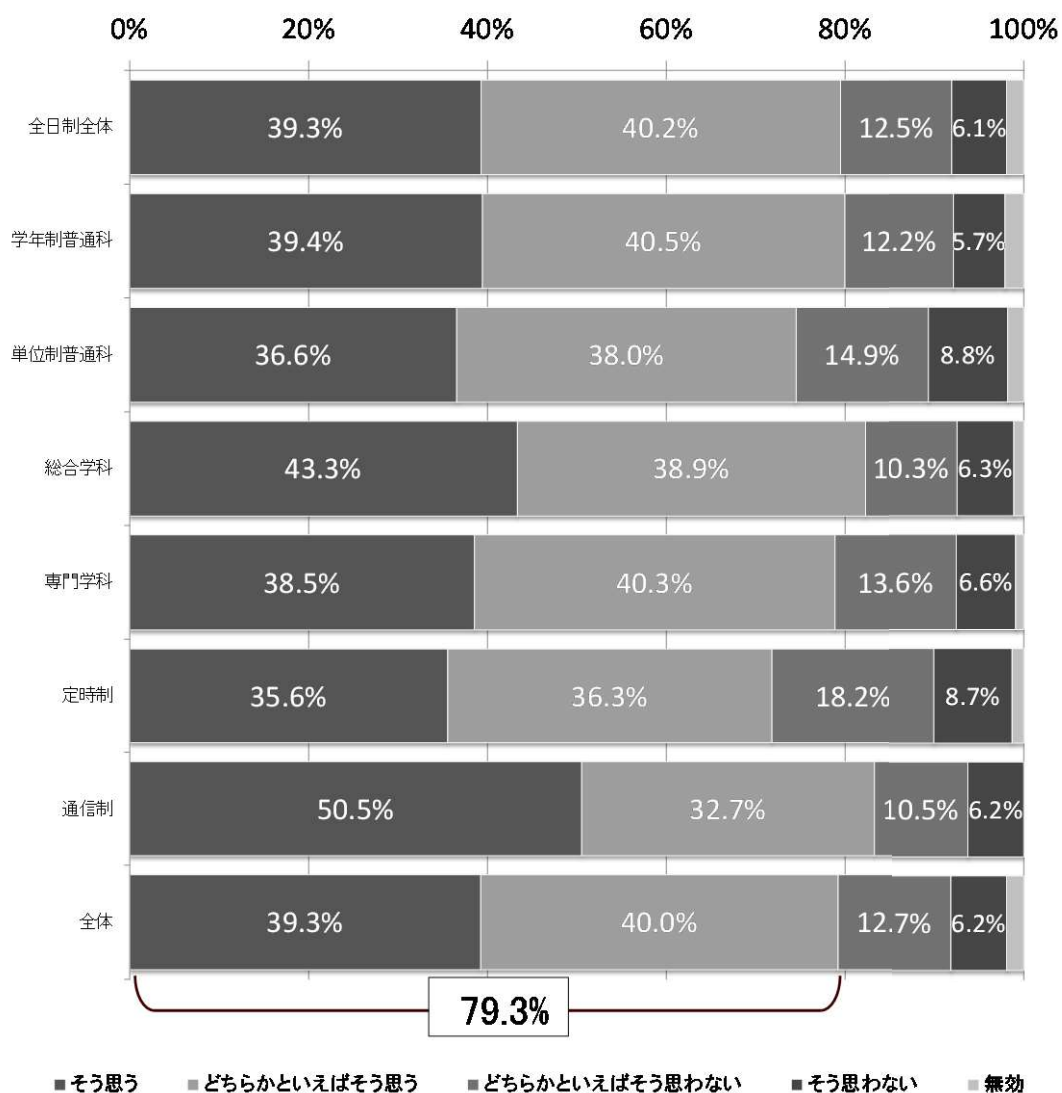
(6) 中学生の時よりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。

この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の71.6%となった。平成30年度の肯定群（76.0%）と比較すると、ほぼ横ばいで推移していることから、今後は、全県立高校へ導入となったコミュニティ・スクールをさらに活用する等、地域との協働の機会をより多く設けることが必要である。



(7) 高校生活を通して、「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持たたと思いますか。

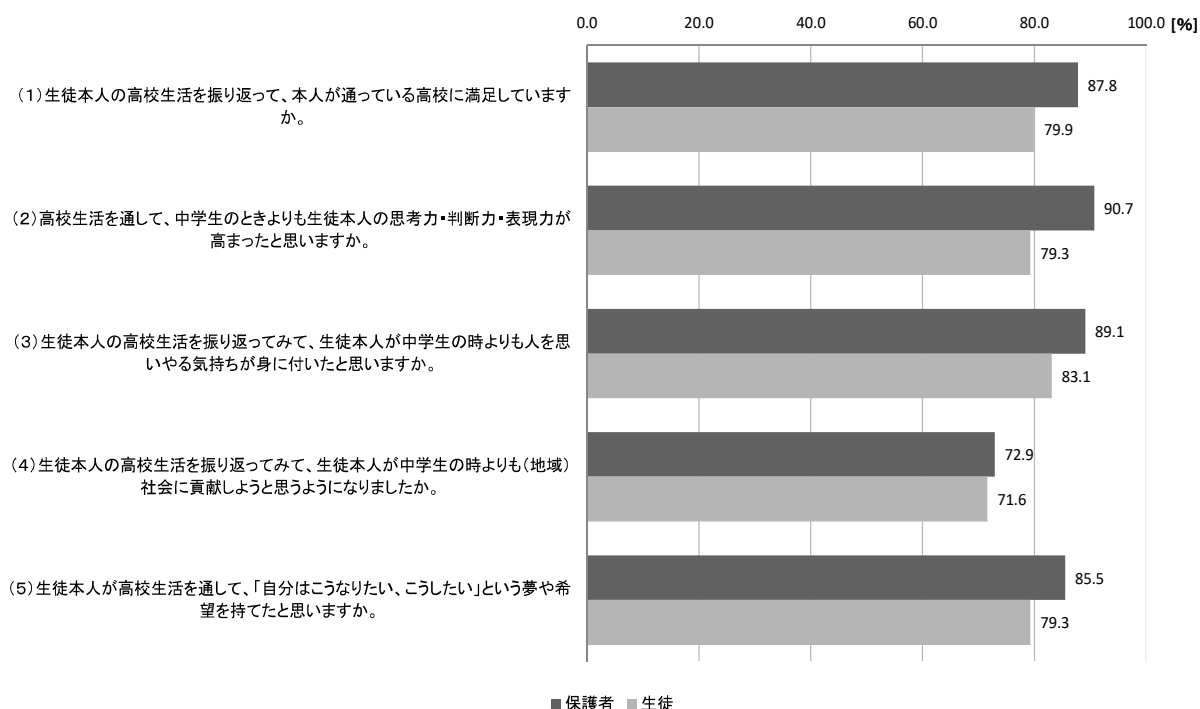
この質問項目に対して、肯定群は、回答者全体の79.3%となった。平成30年度の肯定群（82.9%）と比較すると、どちらも肯定群は約8割であり、ほぼ横ばいで推移している。通信制の生徒は半数以上が「そう思う」と回答しており、高校生活を通して、夢や希望を持たた生徒が多かったことが伺える。今後も引き続き、生徒が主体的に活動する授業等の取組により、自己肯定感等を育成し、将来に対しての夢や可能性を広げることができるよう取り組む必要がある。



2 保護者向けアンケート結果と生徒向けアンケート結果との比較

生徒と保護者共通の質問項目について、(1)は満足群の割合を、(2)～(5)は肯定群の割合を比較した。すべての質問項目に対する保護者の満足群及び肯定群の割合は、生徒の割合よりも高かった。

生徒と保護者の回答で差が大きかった質問項目は、(1)と(2)である。(1)の「生徒本人の高校生活を振り返って、本人が通っている高校に満足していますか。」については、生徒(79.9%)と保護者(87.8%)の満足群の割合と比較すると、保護者の方が、7.9ポイント高かった。(2)の「高校生活を通して、中学生の時よりも生徒本人の思考力・判断力・表現力が高まったと思いますか。」については、生徒(79.3%)と保護者(90.7%)の肯定群の割合を比較すると、保護者の方が11.4ポイント高かった。また、(2)の保護者の肯定群の割合が90%を超えていることから、多くの保護者が子どもの思考力・判断力・表現力が高まったと考えていることが伺えた。



3 学校運営協議会委員の意見

【対 象】全県立高校の学校運営協議会委員

【対象校】全県立高等学校

【内 容】各校の学校運営協議会に期待することなど、自校のコミュニティ・スクールでの活動を通しての意見

【意見集約の方法】各学校において、学校運営協議会を通じて伺った意見を取りまとめた。

- 生徒の地域貢献活動が地域から推薦され、感謝状をいただいた。職員一同による地域連携の取組も評価され、表彰されたことは大変喜ばしい。自己肯定感を持てる高校生を今後も育ててもらいたい。
- 地域の活動に積極的に参加している印象を受ける。地域としては、近くに高校生がいることで安心できる。時間の許す限り地域行事に参加してもらいたい。
- 地域貢献活動は、地域社会にも、生徒自身の心の育みにも効果があった。防犯や危機管理上の注意を慎重に行って、地域貢献、社会貢献、他人を思いやる人づくりに努めてほしい。
- 登下校時の自転車事故件数は気になる状況である。交通ルールやマナーの意義、そして事故の責任を生徒たちにより深刻に理解させる取組みを強化してほしい。
- 思考力・判断力・表現力の向上が図られるように取組を継続してもらいたい。
- 新学習指導要領による教育課程の編成では、学校としての特色を最大限に生かしてもらいたい。
- 一人ひとりの進路への支援体制の整備、また生徒が自らの将来像を描けるよう、生徒の多様な進路選択を意識した進路指導をしてほしい。
- 演習・実習、体験発表などを通して専門分野の学びを深め、実践する力を育成してほしい。
- 4年間の目標が明確に掲げられ、そのための授業・学習機会が提供されていることは、高く評価できる。今後は「社会に開かれた教育課程」「総合的な探究の時間」を授業づくりに位置づけるカリキュラムマネジメントを検討されることが望まれる。
- コミュニティ・スクールとして2年目に入り、より進化した学校運営協議会が行われた。今後は協議機関としての機能をより活用し、学校の実現したい教育が、学校・保護者・地域の理解と協働によって行われることを期待する。
- 「働き方改革」を念頭に業務の精選を行い、生徒にかかわる時間をしっかり確保するべきである。また、職員間で会話のできる環境づくりを常に心掛けてほしい。
- 学力向上進学重点校としての使命感を持って、生徒一人ひとりの高い進路実現に向けた教育課程の実施に努めていると感じた。
- 近隣校や人々との関わりを安全、安心で豊かな学びにつなげ、その協働を多くの生徒に還元できたことは評価できる。
- リスクマネジメントとして、防災への取り組み、教職員の倫理観の醸成等をより定着させてほしい。
- 部活動が活発化している様子が近隣にも伝わっており、その成果等を多方面から知ることができうれしく感じる。
- ICT等の活用と探究等の活動はセットにして考えていく必要がある。教科を越えた形での教育課程の編成が必要である。ICTやBYODを積極的に活用し、その成果を公開授業や講演会を通して他校へ発信していることは学内外に好影響を及ぼしている。今後も継続してほしい。
- 教員間の情報共有とタブレットPC等の積極的な活用を進め、より充実した進路指導の実現を目指してほしい。
- 生徒に「身につけさせたい力」を明確にし、生徒の興味関心を培う授業を目指してほしい。
- ボランティア活動は、生徒が自主的に行える環境を整備していくべきである。ボランティアに参加したいと思う活動を用意し、生徒の意識を変えていくことも必要である。